

令和3年度 第8回掛川市総合計画審議会 議事概要

日時	令和4年1月7日(水) 10:00~11:40
会場	掛川市役所4階 会議室1

■出席者（敬称略）

No	氏名	所属・役職等	出席状況
1	日詰 一幸	国立大学法人 静岡大学 学長	出席
2	星之内 進	NPO 法人おひさまとまちづくり 理事長	出席
3	小川 雅子	公益社団法人 大日本報徳社 主事	出席
4	金嶋 千明	静岡県危機管理部参事兼地震防災センター 所長	出席
5	鎌塚 優子	国立大学法人 静岡大学 教授	出席
6	幸田 拓也	日本電気株式会社 PS ネットワーク事業推進本部 国内スマートシティグループ	出席
7	齊藤 奈津子	島田掛川信用金庫 地方創生室 副室長	出席
8	須藤 みやび	一般財団法人 静岡経済研究所 主任研究員	出席
9	垂門 涼子	ソフトバンク株式会社 東海 IoT エンジニアリング本部 東海 IoT 技術部 部長	出席
10	長濱 裕作	NPO法人 かけがわランド・バンク コミュニティマネージャー	出席
11	中村 陽子	人・農地プラン 委員	出席
12	増山 達也	有限責任監査法人トーマツ ディレクター	出席
13	宮地 紘樹	医療法人社団 綾和会 掛川東病院 院長	出席
14	村上 文洋	株式会社 三菱総合研究所 主席研究員	出席
15	守屋 輝年雄	掛川市地区まちづくり協議会連合会 会長	出席
16	山本 たつ子	社会福祉法人 天竜厚生会 理事長	出席
17	山本 美鈴	株式会社 山本製作所 専務取締役	出席

発言者	発言内容
1 開 会	
2 市長あいさつ	
市長	<p>おはようございます。改めまして、あけましておめでとうございます。</p> <p>新年早々ではございますが、第8回総合計画審議会、今年度では4回目になりますが、お忙しいところ、日詰会長はじめ各委員の皆様にお集まりいただき誠にありがとうございます。</p> <p>最近、事業再編など様々な動きが、まさにダイナミックに起こっています。自動車業界は最たるものと思われていますが、我々もいろいろな変化をしていかなければならないと実感しています。</p> <p>本日は、このようなポストコロナ社会の変化を取り入れて議論をいただいた総合計画案の諮問と、最終案の確認ということになりますが、ここまで議論を積み重ねていただいたことに感謝申し上げます。</p> <p>とりわけ、私が市長に就任してから「チャレンジ」をキーワードに進めていく姿勢について、それから懸案になっていた人口については、前回の審議会まで議論をいただきました。人口については、2040年に11万人維持を目指すということで、これまでより少し下方修正という形になりますが、実際には社人研の特別な施策をしない推計では10万人を切っていくと言われる中で、11万人を目指すということはかなり高いハードルであると思っています。高い目標ではありますが、無理ではないとも思われる中で、変化に対応しながらまちづくりを進めていきたいと思っています。そうした意味で、この総合計画は、今後の掛川市のまちづくりを進めていく上で本当に大事な計画になっていくと思っています。</p> <p>最終の詰めの段階ですので、しっかりご確認をいただきたいと思います。</p> <p>そして、本日が委員の皆様にお集まりいただき議論していただく最後の場となりますので、十分なご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>皆様よろしくお願いたします。</p>
2 会長あいさつ	
会長	<p>あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>久保田市長から話がありましたとおり、本日は8回目ということで、この審議会もいよいよ大詰めで迎えています。皆様には、新春早々お集まりいただきありがとうございます。</p> <p>私も、本日の出席にあたり皆様にご審議いただく資料を拝見し、これまで皆様にいただきましたご意見を、事務局で非常にうまくまとめていると思っています。皆様にお集まりいただき、こうして対面並びにオンラインでのハイブリッドで進めさせていただいた審議会も本日で最後ということになりますが、非常にうまく取りまとめられてきたと思っております。まだ、修正した方がよい箇所があるかもしれませんが、短い時間ではありますが、今日も忌憚のないご意見をたくさんいただき、より優れたすばらしいものにしていくことができればと思っております。</p> <p>本日も熱心なご審議をよろしくお願いいたします。</p>
諮問	
司会	久保田市長から当審議会に対して、総合計画の策定について諮問させていただきます。
市長	<p>第2次掛川市総合計画【ポストコロナ編】改定案について（諮問）</p> <p>本市における総合的かつ計画的な行政運営の指針となる第2次掛川市総合計画【ポストコロナ編】改定案を策定したので、掛川市総合計画審議会条例第2条の規定により、貴審議会の意見を求めます。</p>

発言者	発言内容
	※別紙諮問書
議事（１）第２次掛川市総合計画【ポストコロナ編】改定案について	
会長	<p>ただいま久保田市長より、第２次掛川市総合計画【ポストコロナ編】改定案について諮問を受けましたので、委員の皆様のご審議をお願いいたします。</p> <p>それでは議事に入ります。</p> <p>第２次掛川市総合計画【ポストコロナ編】改定案について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	企画政策課長 資料１ 説明
会長	<p>今回の改定案につきましては、これまでの審議会で皆様にご検討いただき、貴重なご意見をいただいたものを取りまとめまして、先ほど久保田市長から諮問を受けた内容となっています。本日はこの総合計画の改定案につきまして再度ご検討いただき、次回の審議会の答申へと取りまとめたいと考えています。</p> <p>本日は、審議会や議会の皆様のご意見を反映させた改定案の全体につきまして、ご意見をいただきます。本体そのものは３部構成になっていて、総論、基本構想、基本計画ということでまとめられています。これまで、委員の皆様にはいろいろな形でご意見をいただいておりますので、本日は総論、基本構想、基本計画と分けてご意見をいただくということではなく、全体を通して、再度ご検討いただいた方がいいところ、あるいはこの点についてはもう少し検討が必要ではないかという観点でご意見をいただきたいと思います。</p>
委員	<p>１点目に、６ページにコロナによって人口減少に転じたとあり、９ページには転出超過になったとありますが、コロナと人口減少、転出超過との関係が少しわかりにくいと思います。おそらく外国人住民が母国に帰って戻ってこないということだと思いますが、文章にするかどうかは別として、市の中では正しい理解をしておく必要があると思います。</p> <p>２点目に、８ページに生産年齢人口についての記述がありますが、気をつけなければいけないことは、割合と実数で意味が異なるということです。ここでは割合について書かれていて、生産年齢人口割合が減って高齢者の割合が増えると社会保障の関係が難しくなる、これは正しいです。そして、生産年齢人口の絶対数が減ると、働き手が不足して、産業活動やさまざまな活動が維持できなくなるという問題があります。今の将来目標人口ですと、生産年齢人口は、２０１５年には６万９千人、２０４５年には４万８千人となっています。人口が７割に減る、つまり働き手が３割いなくなり、このままだと単純に考えれば、１０社のうち３社は立ち行かなくなるというような計算になりますので、絶対数が減るということもここではきちんと記載しておいた方がいいと思います。</p> <p>３点目に、１０ページや３２ページに、コロナで日本はデジタル化が進んだということの記述があり、それは正しいですが、一方で日本のデジタル化の遅れが顕在化したということもあります。医療だったり教育だったり介護だったり行政だったり、その点もちゃんと記載したほうがいいのではないかと思います。</p> <p>４点目に、１１ページに持続可能な社会の記述がありますが、これは人口減少を食い止めないで持続可能な社会にはなりません。子育て施策等を非常に充実した書き方をしていますが、まずは人口減少を食い止めることが、持続可能にすることの前提だと思います。</p> <p>５点目に、１６ページと４８～５２ページに、子育て支援に関する非常にさまざまな施策が書かれていてとても良いことだと思います。これは、総合計画に書かなくてもいいのですが、今後、少子化対策のさまざまな施策を検討する中で、要因をきちんと明らかにして、例えば未婚率の上昇に対してどのような対策を打つのか、子供を持ちたくても持てない人たちに対して不妊治療等々の施策を打つのか、子供を将来３人・４人持ちたい人に対し</p>

発言者	発言内容
	<p>て経済的な面で持てない場合はどのような施策を打つのか、それぞれ要因に対する施策を用意していかないと、ただ単に思いついた施策を並べるだけになってしまいます。できれば今後、少子化対策実行プランのようなものを別冊でいいので作って検討していくと良いのではと思いました。その際、子育てだけではなく、就業や介護、貧困など様々な課題があります。行政側から見ると別の制度なので、あるいは別の部署なので、政策がバラバラになりますが、今、厚労省が重層的支援体制整備事業などをやっています。つまり、住民の視点に立って必要なサービスをパッケージングして提供するという国も謳っていますので、今後はそういった取り組みも検討していく必要があると思います。それから、23 ページに国の希望出生率 1.80 とすると仮定したということがありますが、希望出生率は用語としてわかりにくいので、例えば「国が目標として掲げる出生率」としておいたほうが良いと思います。また、少子化対策実行プランを作るのであれば、どの施策でどれだけ出生率が上がるのか、上がることを期待するのかをちゃんと示して、その結果として全体で 1.80 になるということがわかるような計画が必要だと思います。それから、36 ページに目標指数が掲げられていて、2018 年に人口千人当たりの出生数 8.17 を 2024 年に 8.45 にするとなっていますが、これで 2040 年に出生率 1.80 が実現できるのかどうかというのを内部でしっかりチェックしておく必要があります、そこの整合を取らないと 1.80 という目標が宙に浮いてしまいます。</p> <p>それから、33 ページに唐突にラウンドテーブルの絵が出てきますが、ラウンドテーブルの説明がなく、この絵は本当に必要なのか、かえって混乱するのではないかと気になりました。</p> <p>また、123・124 ページに、行政のDXの話が出てきますが、ぜひここに職員のリモートワークの推進ということを入れてほしいと思います。窓口対応などがあり、なかなかリモートワークしにくい部署があるのは事実ですが、その他の部署でできないことはないのです、やはり企業だけではなく行政自らのリモートワークの推進が、コロナ対策にしても必要かと思っています。</p> <p>最後に、基本的なことですが、書き方の話として、和暦をやめたほうが良いと思います。行政は慣習で和暦を使うことになっていますが、例えば平成 27 年から令和 3 年の間に何年経ったかすぐにわかる人はいないと思うので、西暦で全部揃えるべきだと思いますし、外国人もその方が分かりやすく、コンピューターもわかりやすいです。また、英数字を全角で書くのは日本だけなので、英数字は原則半角にした方がよい私は思います。それから、グラフの書き方ですが、グラフの原点は原則 0 にした方が良いです。特に棒グラフは途中から始めると読み手に間違ったイメージを与えますので、グラフは正しく書いたほうが良いと思います。</p>
市長	<p>たくさんのご意見ありがとうございました。</p> <p>コロナによる人口減少の部分ですが、6 ページが一番重要な事実認識のところだと思います。私自身の認識でも、コロナになって、これまでは外国人をはじめとする現役世代の流入・社会増があり、それが自然減を上回っていたために掛川市の人口は微増していましたが、コロナになってその流入が減ったために、全体として減少に転じたという理解です。コロナになって来日していた方が即座に帰ったかと言われると微妙なところですが、そもそもあまり移動ができないということがあり、留まった方もそれなりにいたと思いますが、一番大きな理由は流入が減ったことだと思っています。そのあたりの数字も確認しながら、理由のところを記載していくようにしたいと思います。</p> <p>ほかのご意見についても適宜対応してまいります。</p>
会長	<p>人口の側面と少子化対策についてご指摘がありました。その点について市から何か</p>

発言者	発言内容
	ありますか。
子ども 希望部長	<p>子育て施策についてですが、これをやるからこれが解消される、それによって出生率が何ポイントぐらいアップを図れるといった、そのあたりの集計をまとめた中で、今回示された11万人の維持というものが理由付けできるような形に積み上げができればと思っています。</p> <p>また、ご指摘いただいた点につきましても整理して検討して参ります。すぐにこれがこれというのが難しい点もありますし、コロナも今年どうなるのか、来年どうなるのかそのあたりも考えなければなりません。外国人の雇用がカットされて、就労できなくて保育へ預ける人が少なくなったということもありますので、そのあたりは、景気の回復に伴って雇用が回復し、しっかり8時間労働の方が増えてくれば保育ニーズも上がってくると考えています。まだいろいろと動きのあるところですので、正確に判断しながら随時変更していければと思っています。</p>
企画政策 部長	ご指摘のありました少子化対策実行プランにつきましては、総合的なプランというものを掛川市は持っていませんので、今後、総合計画を推進していく中で、そういったプランの策定についても検討していきます。
会長	職員のテレワークについてはいかがですか。
総務部長	<p>掛川市では特定事業主行動計画が定められており、その中でテレワークの推進を謳っています。まだ具体的な数値目標はありませんが、現在、時差出勤と大東・大須賀支所を使用したサテライトオフィスを実施しておりますので、テレワークも推進していきたいと考えています。</p> <p>総合計画の中に入れていくかどうかは、働き方改革も行っていくところですので、他の計画との整合性も取りながら進めていきます。</p>
委員	行政のリモートワークについてのことなので、おそらく行政DX推進計画にも書かれるのではないかと思います。
総務部長	特定事業主行動計画は、企業等についてもやっておりますが、掛川市としての計画がありますので、DX推進計画と合わせて整合性を取っていきます。
委員	参考までに、テレビで流山市のおもしろい取り組みが紹介されていきました。駅に保育ステーションを設けて、その駅に子供を預けて保護者が出勤し、その保育ステーションから各保育園にバスで園児を送り届けて、夕方バスで各保育園に迎えに行き、駅の保育ステーションに保護者がお迎えに来るという取り組みです。できれば、他の自治体や海外の良い取り組みを参考に、掛川市の少子化対策実行プランを策定し、全国のモデルになるようになってくれると良いと思います。流山市は流入も多いのですが、出生率が高まっています。日本全体の人口が減る中で、流入に期待することはできないので、やはり自ら出生率を高めることが重要だと思いました。
会長	大変有益なご意見をありがとうございます。
委員	<p>様々な意見がここまで反映されて、熱量のある素晴らしい計画だと思います。世の中の変化が大きいので、計画にとらわれず、変化が起きた場合には柔軟に対応するというチャレンジもぜひ進めていただきたいと思います。</p> <p>122 ページ7-(5)の「現状と課題」に「新たな日常の原動力として、制度や組織の在り方等をデジタル化に合わせて変革していく、社会全体のDXが求められています。」と書かれていますが、デジタル化に合わせて制度や組織の在り方を変革するのではなく、デジタルを活用してこれからの新しい業務や制度や組織の在り方等を変えていくということで、デジタル化が目的になっているような文章に見受けられます。それ以外の施策につ</p>

発言者	発言内容
	<p>いては記載されているとおりでと思いますので、デジタルを活用して、制度や組織、業務の在り方を変革していくという考え方でまとめるのが良いと思いました。</p>
<p>企画政策 部長</p>	<p>昨年から、デジタルについては目的と手段の関係は整理をするようにとたびたびご意見をいただいてきましたので、修正します。</p>
<p>委員</p>	<p>様々な意見が見事に反映されていて、興味深く拝見させていただきました。</p> <p>教育と福祉のところで、52ページの児童虐待と、55ページの健康医療課の施策関連についてお話しします。毎回申し上げているとおり、子供の不登校が非常に問題になっており、児童虐待も増えています。学校に入学する前からの問題を引きずっていることもあり、不安定な保護者の方にとずっと同じ保健師がついてサポートをしたり、長期にわたって学校に入学するまで同じ保健師が支援してきたりという制度がありますが、不登校の問題、虐待の問題は、学校に入学する前から深く関わっていて、どうしても行政施策は縦割りになってしまいますので、そのつながりがどのようになっているのか、具体的にもう少し示すことができれば良いと思います。</p> <p>それから、今は非常に医療が高度化していますので、障がいを持った子供や小児がんのサバイバーの子供がすごく増えています。AYA世代といって思春期の子供たちのケアというのがすごく不十分なところもあり、どこが担当でどういった事業を行うのかということが気になりました。</p>
<p>委員</p>	<p>学校との連携については、最近では保育園と幼稚園を含めて、子供たちが学校に上がってくる連携を非常に深めているところです。特に掛川市は、幼少連携をとっても進めていますので、各地域のなかで連携をとっているというのが実状です。</p> <p>また、不登校の話ですが、保育園はかなり手厚い親支援や子供支援をしていますが、小学校に上がると、大半は家庭教育の中の親に責任が委ねられています。育休は長期で3歳まで、小学校に上がる1年間を休職するようなシステムを作って、親が子供に関わるようにしていく、これが親からは非常に喜ばれています。特に、いきなり保育園から小学校に上がると、環境の違いや保育士と教員の子供への関わり方の違いなどで、子供たちが非常に混乱することがありますので、そこは手厚く支援していかなければならないと感じています。このようなシステムが導入されると、親にとっても、小学校1年生の壁、4年生の壁、その壁に当たったときに柔軟に対応できる勤務体制にすることで、親が安心して関わっていけるのではないかと思います。現状ではそうした状態ですが、不登校は非常に問題になっていて、スクールソーシャルワーカーの配置基準が残念だと思っていて、せっかく資格があるのに、非常勤などで関われる学校数が非常に多く十分な対応ができないこと、また、障がいを持った子供たちを、各障害児の相談支援センターやソーシャルワーカーが連携をとって横軸で支えあう環境を取っていかないと難しいと思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>各委員から、審議会のすばらしいチームプレーの中でご意見をいただきました。</p> <p>掛川市も小中の連携、学園化という考えの中で連携をしており、あとは幼稚園から小学校については、先ほどもお話があったとおり、環境が激変するとき、子供にとって幼稚園から小学校に上がる小1や中学校に上がる中1、高校に上がる環境の変化の時に、いろいろな困難などがきっかけで不登校になることもあると伺っていますので、その辺の一層の連携やスムーズな接続ができるようにしていきたいと思っています。</p> <p>それから、市の保健師等が子育てを巡回、乳児の家庭を保護していくといった取り組みについては、フィンランドの「ネウボラ」のことだと思いますが、最近新聞でも取り上げられていて、島田市が採用しています。簡単に言えば、担任の保健師ということで、保健指導に来る保健師が毎回変わるのではなくて、この家庭はこの人だと担当を決めて同じ</p>

発言者	発言内容
	<p>人がいつも来る、そうすることで家庭の方はこの人にとにかく相談すればいいと、部署ではなく人ということで相談しやすくなるといったことが言われています。</p> <p>私ももっと勉強しないといけないと思っていますし、我々もどういったやり方が良いかということを考えていきたいと思っています。</p>
教育長	<p>ご指摘いただきました不登校の問題や虐待の問題は、本当に大きな課題だと捉えており、これからの時代を見据えて対応を考えていきたいと思っています。今現在、いろいろな手を打っているところで、特に先ほどもお話があったソーシャルワーカーの話ですが、これについても不足しており、やっとな国・県ももっと必要ではないかと、県も来年度は人を増やしていく予定です。現状配置されているソーシャルワーカーを見ても、スキルの面でまだ課題があり、十分に園と小中連携ができているかということとそうでもないと感じています。進めるにあたっては、行政がある程度主体となって間に入りつなげていくといった役割を持っているところです。今後はそういったソーシャルワーカーも増やしながら、スキルを上げて対応していきたいと思います。</p> <p>それから親の責任の話につきましては、教育委員会としては、そこは親の責任と捉えるのではなく、行政と一緒に考えていくというスタンスでいます。そのため、家庭子育て支援、家庭教育支援として、今も支援員を増やしながら、何か相談があれば支援員が入って親の困りごとや家庭の困りごとに対応していくということで、どちらかということとソーシャルワーカーよりも支援員の方が重要な役割を担っていると思います。</p> <p>また、いわゆる園、学校、家庭をつなげるガイドブック、園から小学校に上がる段階、小学校から中学校に上がる段階には様々な困りごとがありますので、それぞれどういった準備が必要かを事細かにまとめたものを作成中です。いろいろな時代の変化に合わせていろいろな困りごとが出てくるかと思しますので、柔軟に対応していきます。</p>
委員	<p>経済の問題は子供の問題と直結していて、生きて働く力、労働力につながっていきます。教育によって掛川市が大きく発展していくと思いますので、私の専門分野から述べさせていただきます。</p>
委員	<p>76 ページの雇用と就業の「現状の課題」に若者について記載があり、多様な雇用の場の創出と就業支援の2点が挙げられています。市長から事業再編がダイナミックに進んでいるとお話がありましたが、今は70歳ぐらいまで働くと言われていた世の中で、若者たちの雇用枠が増えていくのか、正規と非正規の問題もあります。昔は1つの会社に長くいることが善と言われていましたが、私自身も現在3つの仕事をしながら生活していて、一昔前なら3つも仕事をしないと生活できないのかと言われたかもしれませんが、今は当たり前になっていますし、複数の仕事を持つということが豊かな生活につながっていきます。例えば、複数の仕事を持つことに対して、仕事を持ちながらチャレンジすることに対して後押しするような、応援しているというような、若者に対しての心遣いのような記載が何かあると、掛川市というのはただ雇用の場の創出や企業誘致をしているのではなく、多様な働き方を後押ししている、チャレンジする姿勢を後押しする、複数の仕事を持つことが決して悪いことではなく豊かな生活につながるということを後押しするような記載があると、若者へのメッセージになると思います。</p>
市長	<p>おっしゃるとおりで、委員の中にも複数の仕事をお持ちの方がたくさんいらっしゃると思います。実際にそのような働き方や生き方というのが増えていきますし、事業再編などがこれからの時代どんどん進んでいくと思います。多くの企業で雇用の確保に非常に苦勞していて、とりわけ掛川市内の製造業はB to Bが多いので、高校生など若い方から見ると、大企業のように知られている会社ではないが、非常に重要な事業をやっている会社がたくさんあるということが、なかなか伝わっていないということがあります。おそらくマ</p>

発言者	発言内容
	<p>ツチングの話につながるとは思います、そういったことにもつなげていって、働き方はもちろん、市内にはいろいろな会社があるということも含めてしっかりと伝えていきたいと思っています。</p>
委員	<p>77 ページの「④障がいのある方も働きやすい環境の整備」について、私の会社にも障がいのある方がいて、入社後は市役所やハローワークからご支援いただけるのですが、期間が経ってくると、こちらからアプローチをしないということもありますが、だんだんそこも薄くなってきます。語弊があるかもしれませんが、障がいのある方は年を取るのが少し早いように感じていて、いろいろな意味で今までできていたことができなくなるということがあり、この計画の中に記載するとかではなく、そのあたりの支援やサポートがあったらありがたいと思いました。</p>
会長	<p>市には、今ご指摘いただきましたことをご検討いただければと思います。</p>
委員	<p>116 ページの7-(3)「市民、自治組織、市民活動団体等の協働によるまちづくりの推進」の「現状と課題」の中で、「地域活動への関心が薄くなっており、『自分ごと』としてまちづくりや地域活動に関わる意識を改めて醸成していく必要があります。」とありますが、キーワードになるのが「自分ごと」で、まちづくりに関わっている方がどれだけいるかということで、そのベースになるのが生涯学習という概念、あるいは掛川で言えば報徳の分度・推譲という教えだと思います。特に、地域の防災に関しても、誰かがやってくれるだろうということだと自助もつながりませんし、そこを「自分ごと」として地域活動、自分たちの住むまちをどのように住みよいまちにするのかという「自分ごと」という考え方が1つのキーワードになるのではないかと考えています。</p> <p>生涯学習をどのように醸成していくかが大切だと思います。生涯学習とまちづくりの関係性をもう少し煮詰めていって、生涯学習はあくまでもサークル活動だけではなく、まちづくりにも関連を持たせる、そのためにはどうやって地域で人材育成を行っていくことがキーワードになるかなと思っています。</p> <p>私たちも地域でがんばっていきますので、行政からの支援もよろしくお願いします。</p>
会長	<p>ぜひ、よろしくお願いします。</p>
委員	<p>環境分野について、28 ページに戦略の1つとして、(3)に地域循環共生圏という言葉がキーワードとして出てきます。狙いの1つとして出てきてとても良いことですし、ぜひこれからやっていかなくてはいけないことだと思っていますが、この言葉が非常にわかりにくく、中身がどのようなものを指しているか、これから市民に浸透していくという過程にあるのではと思います。(3)②が、地域循環共生圏の概念を端的に表しているところだと思いますが、資源循環と脱炭素化が2つのキーワードで、それが地域循環共生圏という枠組みの中で実現されていくということだと思います。この②が、その下の「脱炭素社会等の実現による地域循環共生圏の構築」につながっていると思いますが、一方でそれを具体化した68 ページの3-(1)のタイトルの手段と目的が逆になっていますので、これは統一して、手段と目的をちゃんとしたほうが良いと思います。</p> <p>それから、先ほどのエネルギー、脱炭素の問題と資源循環の両方が地域循環共生圏の2つ目のキーワードだとしたときに、65 ページの施策の方向を見ると、どちらかというと脱炭素の話になっていて、資源循環の話が施策の中にあまり載っていません。65 ページの「③再生可能エネルギーの普及促進」の中で、風力やバイオマスの地産の資源を活用してということが資源循環のイメージを出していると思うので、③のタイトルに資源循環というキーワードを入れると、もう少しわかりやすいのではないかと考えています。再生可能というキーワードは①の施策の方向で入っていますので、③には資源循環というキー</p>

発言者	発言内容
	ワードを強調したほうが、2つの柱だとわかりやすいと思います。
会長	私も気になりましたので、28ページと64ページのタイトルの整合性を図っていただきたいと思います。再生可能エネルギーだけではなく、資源循環の視点も入れたような形の施策の方向にしていいただければと思います。
委員	<p>掛川市の真摯な取り組みにより、コロナ後の社会の実態に合わせた実効性のあるすばらしい計画を策定されて、皆様の取り組みには頭が下がります。ぜひ、実現に向けて取り組んでいただけたらと思います。</p> <p>1つお伝えしたいことは、企業の社員教育、リスキリングとリカレント教育、1-(2)でもリカレント教育という言葉が盛り込まれておりますし、4-(2)②にも「デジタルを活用できる人材やの育成やデジタル人材の確保を促します。」というように盛り込んであり、とてもすばらしいと思います。おそらくこれから、若手の人材が不足していき、中高年の就労も期間が長期化する中で、再教育、さらに長い時間働けるようなスキルは必要不可欠になってきます。企業はそのことについて危機感を持っていますが、取り組み状況はどうなのかというところ、マスコミに登場するような先進的な企業などは様々な取り組みをしていますが、実際にリカレントやリスキリングなどでどのようなことをどうやって学んでいけば良いかということ、企業も個人もまだ模索している段階だと思っています。実際どのようなことをやっていくかということはこれからですが、今まで以上に、働き続けることによる学び直しの重要性というのが、どんな人にも必要となってきます。すでにこの総合計画の各所に盛り込まれていますが、大学もちろん、行政も参加して、地域と一緒に、今いる若い人だけではなく、中高年を含めた人たちの能力のさらなる構築をどのように図っていくかということが重要であり、企業のニーズがあるということを頭の隅に置いておいていただければと思います。</p>
会長	教育の再教育、もしくはリカレント教育につきましては、私も大学にいて、常にそのあたりをどのように地域と連携していくのかは問題関心の中にあります。今、国も岸田政権になってリカレント教育をいかに進めていくのかという政策立案や法整備に進み始めており、これからの大学と地域がどんな形で実現できるのかというところを具体的に考えていかなければならないステージに入ったと思っています。ぜひ、そのあたりもご検討いただければと思います。
委員	79ページの4-(2)③ですが、前回の審議会の意見を反映していただいてありがとうございました。私は全国の産業振興に関わっている立場で、経産省や中小企業庁、今は田園都市構想があり、そのことで議論することが多いのですが、国の施策の話をする、大企業も含めて全国の皆さんがコロナで苦労されていて、そのバリューチェーンの中で大企業ですら苦労している中で、やはり日本の8～9割は中小企業ですから、掛川市内の中小企業にどのようにデジタル化を含めて成長支援をしていくかということがすごく重要だと思います。今後、この政策を推進していく上で、いかに丁寧に中小企業、農業も含めて、ITやIoT化、今ですとDX化を推進していくのに、これは当然官民連携でお願いしたいと思います。商業ベースではなく、IT化や企業支援していくことは行政にしかできないこともあると思いますので、掛川市が将来成長発展していくために、丁寧に行政として取り組んでいただきたいと思っています。
市長	私も同じようなところを考えていたところがあります。中小企業の中で対応が必要なのはデジタル化で、EC化というような通信販売などへの対応において、もちろん先んじてやっているところもありますが、なかなか腰が重く、サイトの構築などがおっくうだとかで正直手が回っておらず、通信販売にすればすごく売れそうなものがあつたり、市内にも大手の旅行サイトに載っていない旅館等もあつたりすると聞きます。

発言者	発言内容
	<p>それまでの行政のやり方というのは、このようなIT化、EC化がありますといった支援で、手を挙げてもらっていましたが、もう少しおせっかい度を上げて、こういう支援が必要ではないですかといった姿勢が我々にも必要ではないかなと思っております。そこも含めて、検討していきます。</p>
委員	<p>59 ページの「②認知症の共生と予防」という言葉ですが、認知症に関しては早期発見がかなり重要だということがずっと言われてきたのですが、近年になり、早期発見だけではなかなか支えることが難しいという状況です。この「共生」という、認知機能が落ちて一緒に暮らしていく、認知症ある方がいて当たり前で一緒に暮らしていく、共生していくことが大事だと強く言われるようになり、予防より「共生」が先にあることが非常に良い表現だと思いました。この②の「共生と予防」の「共生」を強調したところを鑑みると、58 ページの現状と課題には「引き続き、介護予防及び認知症対策は重要であり、早期発見が必要です。」と早期発見が前に出ており、誰かに早く見つけてもらって治療すれば良いのではなく、その中に認知機能が落ちた方も一緒に暮らしていくということをここでも強く出してけると非常に良いのではないかと思います。表現の方法だけになります。特に高齢化が進んでいるということは課題で表現されていますが、掛川市においては静岡県の中でも東部とか中部に比べて西部は急ピッチで高齢化が進んで高齢者が増えると思われています。高齢者が増えれば認知症の方も増えて、おそらく静岡県の中でも掛川市は認知症と強く向き合っていくような環境に今後さらされるのではないかと思います。そういった意味で、この「共生」という言葉が前面に出ていくということが非常にすばらしいと思いました。現状と課題のところ、皆さんが「自分ごと」として意識できるような言葉が使われるとより良いのではないかと思います。</p>
委員	<p>個別施策のところSDGsのマークが入って、市民の方にもわかりやすくなっており、とても良いと思いました。</p> <p>行政ですと、計画策定自体が目標になってしまうので、改定案が絵に描いた餅になりがちです。せつかく充実した総合計画になりましたので、それを推進するためにも市民や関係者の皆さんにこの計画の内容を理解し納得していただくことが必要だと思います。行政が作る文章は長くてわかりにくいと敬遠されがちです。市民や関係者の皆さんに向けた説明会を開くなどした時には、どのような情報発信が有効なのかをぜひ検討していただきたいと思います。</p>
市長	<p>行政が作る文章は、なかなか読みづらくて長くて回りくどいと言われています。行政同士がやり取りするような場合ならそれでいいのですが、対市民にとってはマイナスだと思いますし、職員への年頭のあいさつでそのような話をしたばかりです。</p> <p>おっしゃるとおり、総合計画は作るときにかなりの労力を使いますが、その後の周知については、市民にすごく関係のあることですが、その内容を理解している方はたぶん少なく、関心を持ってくださる方も少ないと思います。そういった課題があります。そのため、概要版を作ったり説明会を開催したりする中で、若い方、まちづくりミーティングでは高校生がコーディネーターを務めてくれましたが、高校生にも総合計画を見てもらい、どのように理解するのか、彼らの言葉でどのように総合計画を表現してくれるのかということも含めてやっていきたいと思っています。</p>
委員	<p>感想になってしましますが、一市民として総合計画審議会に参加させていただき、資料を読み、非常に勉強になりました。この審議会で勉強したことに対して、今までよりも、広報かけがわの読み方や、掛川市から送られてくるLINE情報の読み方がずいぶん変わりました。どのように変わったかという、この事業は個別施策のこれに関係あるのだなと個人として思うようになりました。一般市民がこの資料を全部読み込んでもらえ</p>

発言者	発言内容
	<p>ばとてもよい掛川市になると思います、なかなかそれは大変なことです、掛川市から送られてくるLINEの情報、広報かけがわを隅から隅まで隈なく見る人はいないかもしれませんが、LINEでしたらプラスに送られてくる情報をちょっとした空き時間に見てみようかなと思うことがあると思います。私が掛川市のLINEに登録したのは、夏に行われた特産物などが当たるキャンペーンに参加した時で、そこで登録した人は多いと思います。それがきっかけで登録したことで、掛川市がこんなことをやっているということがわかり、この分厚い総合計画を読まなくても何となく浸透していくのではないかと思います。掛川市がいい市だと思う人が増えれば、人口の流出の歯止めにもなるのではと思いますし、若い世代の転入もあるのではないかと思います。LINEのキャンペーンも第2弾、第3弾をやって、LINEだけでなくインスタグラムなどのSNSを使っていけば良いのではないかと思いますし、それが掛川市の柔軟な思考につながるのではないかと思います。そして、そのキャンペーンの時の賞品は、ぜひ掛川産の農産物などを使っただけがいいと思います。</p>
市長	<p>とてもうれしい感想をいただきましたのでコメントさせていただきます。</p> <p>掛川市のLINEに登録している方は去年すごく増えて、今3万2千人ぐらい登録してくれています。掛川市人口は11万人ですが、世帯数は4万5千世帯で、そういう意味では世帯の誰かが掛川市のLINEに登録してくれているというのはかなりの数に上るのではないかと思います。LINE登録者がこれから増えるというのは少し微妙な状況で、情報発信が多すぎるとも思われましたので、昨年から送信される情報を選べるようにしています。子育て中の方は子育て関係の情報が欲しいというところにチェックを入れると情報が来るという、選択的に情報が来るようにするセグメント発信も始めていますので、より使い勝手が良いように引き続き情報発信に努めていきたいと思っています。</p>
委員	<p>市民に対しての総合計画の説明の話がありましたが、市の職員が総合計画を理解することも必要だと思います。この計画に沿って、全職員が一丸となって取り組んでいかなくてはならないと思いますので、内部での理解・促進が必要だと思います。また、職員の方には役所の中だけを見るのではなく、外を見る習慣を身に付けてもらうような取り組みが必要だと思います。市民を見たり企業を見たり、他の自治体を見たり国を見たり、どうしても中だけ見がちになるので、ぜひ外を見る習慣を身に付けてほしいと思います。</p> <p>最後に、国はこれからデジタルの標準化やガバメントクラウドを進めますが、国が言っていることに間違いがあるときは、ぜひ、自治体から国に意見や要望を出すような習慣を身に付けてほしいと思います。これは、掛川市単独ではなくても、周辺広域自治体としても、県経由でも良いと思います。国は自治体の詳細をよくわかっていないので、自治体から国に様々な情報を出すといった習慣を身につけてほしいと思います。</p>
会長	<p>本日は、たくさんの委員の皆様から非常に多くの有益なご意見をいただいております、これにつきましては事務局の方でご検討いただくことにさせていただきます。</p> <p>今後の修正につきましては、私に一任という形でご承認いただきたいと思います。よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>異議なし</p>
会長	<p>ありがとうございます。皆様にご承認いただきましたので、私と事務局に委ねていただいたということで進めさせていただきます。</p> <p>また、審議会からの答申につきましては、本日のご意見を含めて答申案を作成し、事前に委員の皆様にご確認いただいた上で完成版を作ります。なお、1月21日に答申がありますが、委員の皆様にお集まりいただくことはせず、当審議会の正副会長から久</p>

発言者	発言内容
	<p>保田市長にお渡しします。</p> <p>これまで8回の審議会の間、委員の皆様にはたくさんの有益なご意見を頂戴し、誠にありがとうございました。そして本日も、委員同士、また私と事務局とのやりとりもとても有益でした。そういったものの中から優れた総合計画ができてくるということを実感しました。</p> <p>本市にとりましても、今後しばらくの間、この計画が最上位計画となります。先ほど委員からもありましたように、私ども審議会と市、議会の皆様だけで作ったものではなく、これはやはり市民の皆様のものであるということですので、ぜひ市民の皆様とうまく伝わるような仕立てをしていただきたいと思います。</p> <p>委員の皆様一人ひとりのお力添えによってここまでくることができ、皆様一人ひとりに御礼申し上げます。本当にありがとうございました。皆様のおかげで、本当に優れた総合計画の素案を作ることができたと考えております。</p> <p>また、私たちのコメントに対して、前向きに真摯に取り組んでいただいた久保田市長をはじめとする市の皆様、本当にありがとうございました。おかげさまで本当に良いメンバーと市の皆様との間で非常に良いタッグが組めて、良いチームでこの総合計画が策定できたと思っています。今後は久保田市長に委ねることになりますが、何卒実行につなげていただけますようよろしくお願いいたします。</p> <p>皆様本当にありがとうございました。</p>
市長	<p>本日も長時間にわたり、たくさんのご意見をいただきありがとうございました。</p> <p>今回の審議会は第8回ということで、皆様と顔を合わせて行う審議会はこれで最後となります。昨年11月から、日詰会長や委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、毎回ご出席いただき、資料を読み込んでいただき、様々な視点からご意見をいただき、本当に皆様には感謝しかありません。</p> <p>このすばらしい総合計画を、実行の段階で、また、周知の段階でもっともっと多くの市民の方に身近に感じていただけるように今後とも努力してまいりたいと思っています。</p> <p>本日はお集まりいただきありがとうございました。</p> <p>本年も皆様にとって良い年になりますように、また、一層のご活躍を祈念いたしまして御礼のあいさつに代えさせていただきます。本当にありがとうございました。</p>